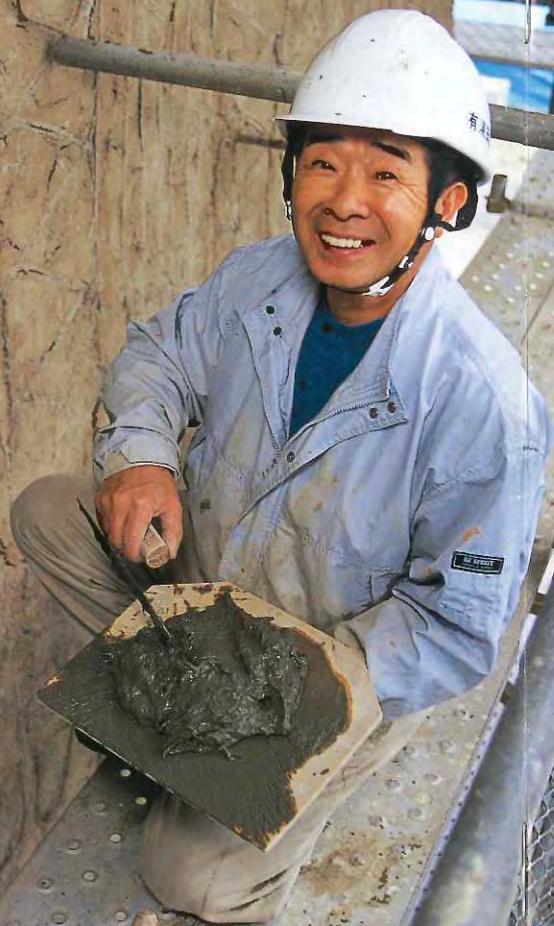


マイウェイ

No.52
2004

かながわ名工物語
監修 社団法人神奈川県技能士会連合会
写真 桜井ただひさ



財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成16年6月発行 ● 発行人 平澤貞昭 ● 編集人 清水照雄 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220 8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2171 (直通) 株式会社 大日本印刷



かながわ名工物語

長い歲月の中で磨き上げられた「技」と「心」を伝える、名工たちの仕事語り。

左官 湯田雄一さん

たんに壁を塗るだけではない。土づくり、漆喰づくりに、左官仕事の妙味が。



上/旧小倉家の蔵づくり。木舞（骨組）の上に荒塗りを施す作業。下/左官仕事の手順を説明するために自らつくったサンプルの壁。

お宅の前には、水切りと呼ばれる箱のあるなまこ壁が巡らされ、玄関を入ると、大津磨きの色壁や茶室造りの土壁から西洋風の石膏彫刻の内装まで、部屋ごとに、さまざまな工夫が凝らされています。

「私としては、左官の技術を見てもらいたいと思ってつくったものですから、見に来ていただければ、うれしいですね」と、親切に案内していただきました。

湯田さんによると、伝統的な左官仕事の基本は土蔵づくりにあるとのこと。

「ごく簡単に言いますと、まずは木舞と



上右/土佐漆喰のなまこ壁。下/石膏彫刻の天井と、「大津磨き」と呼ばれる、高度な技術で作られた色壁。左/石膏彫刻を担当する息子さんの部屋。



愛用する鏝の一部。

ゆだ・ゆうじ ■昭和10年生まれ。母の実家の福島県で育ち、川俣町で左官修業ののち上京。44年、「湯田工業」設立。平成13年、神奈川県優秀技能者表彰、県名工表彰、15年、県卓越技能者表彰ほか。現在、神奈川県連（理事）大和地区組合長ほか。大和市在住。

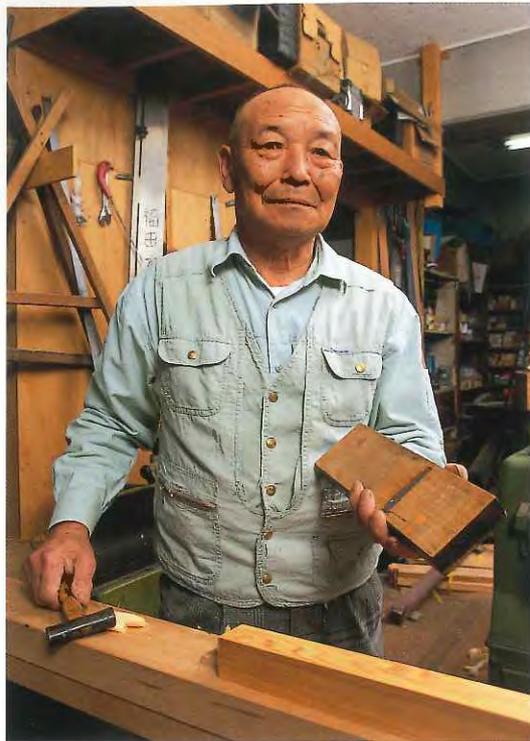
いう下地の骨組をつくり、切藁をいれて練り置きしておいた荒木田土を丸めて打ちつけ、十分乾燥させた後、下塗り、むら直し、中塗り、上塗り、四、五回塗ってゆき、最後に漆喰を二、三回塗って仕上げます。漆喰は角又という糊と麻切で練り、それに石灰、カキ灰を混ぜてつくります。完成するまでに、三年から五年はかかります。皆さんは、左官仕事という、壁塗りだと思われているかもしれませんが、壁の命は苜です。どんなに良い土を使っても、良い苜を使わなければ丈夫な壁はできません」

その言葉からは、鍛え抜かれた職人の誇りがうかがえました。

建具

福田佐吉さん

使いこむほど磨きがかかる
建具のよさを、若い人に
知ってもらいたい。

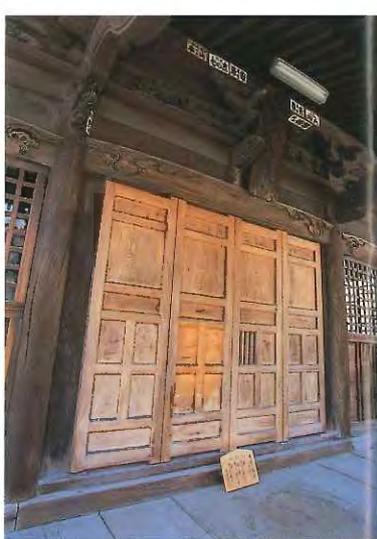


ふくだ・さきち ■昭和6年、栃木県生まれ。35年、川崎市で「福田木工所」を設立。昭和52年、川崎市優秀技能者表彰。平成10年、神奈川県卓越技能者表彰ほか。現在、神奈川県建具協同組合副理事長ほか。川崎市川崎区在住。

「私らの若いころには、見習いで人ると、最初につくらされるのが便所の窓。ごく普通の、ガラスが二枚入った、簡単なやつです。今のようには機械がないから、全部手づくり。溝も手で削って、ノミで穴をあけて、ほぞ差しにする。何枚もつくっているうちに、からだで覚えます。見よう見まねでね」

福田佐吉さんは、昭和六年、栃木県に生まれて、十六歳の時に地元の建具職の通い弟子に。そこで六年の修業を終えたあと、川崎に移住。

「やっぱり田舎の仕事には限りがありません。障子だって、頑丈ならばいいっていう具合で、都会と違って垢抜けない。若



近くの神明神社の扉を制作。年月とともに味わいを増すという樺を使用。



上/子供たちに建具の面白さを伝えるために制作した木組みのバズル。下/「馬乗り」という道具に沿ってノコを入れる作業。



建具づくりのノミ(左)と、面取りカンナ(右)。

いころは、いろんな仕事をしたから、それが物足りなくて、川崎に来ました。それで、なんとか一人前になって、店を構えたのが昭和三十五年です。まあ、仕事もあふれるほどありましたが、最近じゃ、建具屋が腕をふるえる仕事がめっきり少なくなりました。

昔から、建物は建具で光るっていうイメージ。十分に寝かせた木を使って、しっかりとつくる。その良さは、長年使い込めば分かります。ますます磨きがかかってきますからね。まあ、これからは、日本を背負ってゆく若い人や、子供たちに、日本の住まいのよさっていうやつを教えっておかないといけませんね」

印章

磯野紀子さん

主人の死を乗り越えて、
手にした勲章が、
私を励ましてくれます。



いその・のりこ ■昭和16年生まれ。50年、「一伸堂印房」店主に。62年、神奈川県印章高等職業訓練校講師。その後、校長を8年務め、現在も印章の仕事のかたわら講師を務める。平成13年、厚生労働大臣表彰ほか、受賞多数。川崎市中原区在住。

三文判なら五分で彫るといふ早彫りから「早業のお紀」の異名をもつ磯野紀子さんが、印章彫刻の道に入ったのは、三十歳を過ぎてから。もともと印房店を経営していたご主人が、肝硬変で余命三年の宣告を受けたのが契機でした。

「それまでは子育て専門の主婦でしたから、私にできるだろうかと心配でしたけど、根が楽天的なせいかなんとかなるだろうと思つて、横浜にあった印章訓練校に入学しました。ともかく二年間で印章の基礎を覚えて、それこそ指紋がなくなるほど印刀研ぎをして、三年目に二級の国家試験に合格すると、この年、主人が亡くなりました。それから五年間は夢



上/仕事机の上には、印刻台、印刀、墨、朱のすずりなど、さまざまな道具類が。右上/坊主と呼ばれる丸い台に手をあてがい、印材の断面に左文字を描く。右下/印刻台の木と木の間に印材を挟み、当て木をし、印刀で、反転した字体を一気に彫る。左/ゴム板に彫られた磯野さんの作品。



中で仕事をしましたよ」と言う磯野さん。

五年目には一級国家試験にも合格。ようやく暮らしたに余裕ができた時に、友人の勧めもあり、指導員の資格も取得し、訓練校の講師に。その後、校長を務めたあとも、ひきつづき、土曜、日曜は講師という生活を続けています。

そんな磯野さんの勲章の一つが、生徒たちと一緒に制作した作品で平成十一年度・全国総合技能展の「厚生労働大臣賞」を受賞したこと。

「あれは本当にうれしかったですね。私も、まだまだ頑張らなければと思いましたが」と、「早業のお紀」さんは満面に笑みを浮かべました。

表具

鈴木昭雄さん

この仕事は、生涯勉強。つねに新しい技術とセンスを取り入れる姿勢が大切です。



すぎき・あきお ■昭和18年生まれ。33年、「鈴直」に入社。平成元年、「鈴昭」設立。神奈川
県卓越技能者表彰ほか。現在、神奈川県名工
会会員、県技能士会連合会理事、県表具経師
内装協同組合専務理事、(社)横須賀三浦建設
協会副理事長など。横須賀市在住。

「表具といっても、いろいろありますが、一般には書画を軸や額に仕立てることをいいます。まあ、ためしに一つお見せしましょう」と、大和仕立ての掛け軸の裏打から仕立までを、順序立てて見せていただいた。その丹念で手早い仕事ぶりに加えて、話術の方も鮮やかです。

「もちろん仕事をしている時はしゃべりません。なにしろお客さまからお預かりした大切な作品ですから、失敗は許されません。壁に掛けた時に、柔らかく、なめらかで、ピンとしたものをつくるためには、紙の厚み、糊の濃さ、まわりの裂地など、すべてに神経を使います。若いころから何百本と作ってきましたが、今



裂地の配色を決めると、裏打、切継、仕立まで、気を抜けない作業が続く。

表具の道具。水刷毛、糊刷毛、掛刷毛、切継刷毛など、刷毛だけでもさまざま。



でも本紙(作品)を前にすると緊張します。そうして仕上がった掛け軸がお客さまに喜んでいただけた時は、うれしくて、この仕事をやっていてよかったなど。

また、その上に、息子も同じ仕事を選んでくれました。こんなうれしいことはありませんね」

鈴木さんの表情から笑みがこぼれます。その自慢の息子さんは、一級技能士全国大会一位入賞をはじめ、さまざまな展覧会で活躍をしています。

「ですから、私もまだまだ負けられませんが、新しいセンスや技術を取り入れる姿勢が大切。生涯、勉強ですね」

和裁

山本秀雄さん

毎日、座りつづけて、ひたすら運針を続けることが、一人前になる道でした。

山本秀雄さんは、祖父の代からの和裁師です。横浜に生まれて、十七歳から東京の和裁所で修業し、昭和三十八年に現在地で「山本和裁」を設立しました。

「これまで、とくにつらかったことは？」と、お聞きすると、

「修業時代に、あんまり眠たかったので、屋根裏に上がって眠り込んだことがありました。そのころは朝八時から夜は十時、十一時まで仕事をしていましたからね。

でも、そのくらいでしょうか。師匠は優しい人でしたから、私は、物差しで引っぱたかれたこともありませんでしたね」と、淡々とした様子。

とはいえ、和裁の基本は運針うんしん。毎日、

誠実で一徹な人柄が、その表情からもうかがえる。



黙々と仕事をする和裁師さんたち。



右/くけ台を使わず、片方の足の指で、きしっと布地を挟んで縫う(「片座禅」と呼ばれる手法)。上/仕立て上がると、「飾りしつけ」が施されて注文主に手渡される。



上/愛用の針箱。下/鯨尺や揃針などの道具類。

やまもと・ひでお■昭和12年、横浜市生まれ。29、36年、東京草川和裁所で修業。38年、「山本和裁」設立。平成12年、神奈川県卓越技能者表彰。13年、全技連会長表彰ほか。15年、全技連マイスター表彰。現在、神奈川県和服縫協同組合副理事長ほか。横浜市保土ヶ谷区在住。

座り続けて、ひたすら基本を繰り返すことが熟達への道。それが耐えられずにやめてゆく人も多いという世界。「とくに最近の若い人は辛抱ができないから、つらいかもしれません、私たちが時代は、そんなことは言っておられませんが、仕事があるのがありませんでした。毎日、仕事があるのがありがたい。女房と一緒に、注文をこなしているうちに、この歳になりました。おかげさまで、女房に着物一つプレゼントしてやれませんでした(笑い)。

これからの目標ですか? もっと、もっととたくさんの人に着物を着てほしい。着物の普及と和裁師の育成が、私のもう一つの仕事だと思っています」

久保島和子さん

着心地を第一に、長く飽きのこない服をつくり続けています。



最新作のエレガントなデザインの婦人服。

くぼしま・かずこ ■昭和2年生まれ、28年から文化社で縫製技能を修得し、30年、「パール洋裁」設立。全日本洋装技術コンクール1位入賞ほか、受賞多数。現在、神奈川県技能士会連合会副会長、横浜市戸塚区在住。

「仕事をしている時は夢中で、いやなことなんか忘れてしまいますね」



何十年も使ってきた裁縫道具は、分身のようなもの。



「この歳になるまで、好きな仕事を続けてこられて幸せです」と語る久保島和子さんは、七十六歳。とても、お歳には見えない、チャーミングな女性です。

小さいころから洋裁のできる従姉を見ていて、「一枚の布から洋服がつけられるなんて、すごい！」と思い、迷わず洋裁の道へ進み、昭和三十年に戸塚で「パール洋裁店」を設立し、今年で五十年。

「昔は、このあたり（戸塚区吉田町）は、畑ばかりでしたから、いったい仕事があるのかしらって。でも、やりはじめたら忙しくて、仮縫いが山のように溜まっていた。それに、洋裁教室も始めたものですから、それはたいへんでしたね」

と、感慨もひとしお。

その後、注文服の時代から既製服全盛の時代へ。苦しい時代にあっても、久保島さんへの注文は途絶えなかった。

「私どもは、流行の服をつくっているわけではありませんでしよ。お客さまの好みをお聞きして、長く飽きのこない服をつくります。それでも、新しいスタイルには、いつも目を配っていますよ」

熟練した技術とセンス、長年の努力が認められ、平成六年には全日本洋装技術コンクールでカッティング部門一位に入賞、翌年は、県知事の卓越受賞。そして昨年は、全技連のマイスター指名と大臣卓越受賞のダブル受賞に輝きました。

料理

日本 伊澤邦久さん



相撲部屋の「ちゃんこ」は、季節の食材を生かした日本の郷土料理の集大成です。

いざわ・くにひさ ■昭和17年、東京生まれ。35年に赤坂の「割烹きくみ」で調理見習い。その後、各地で修業を積み、静岡県熱海市の割烹旅館の調理長に。現在、川崎市の「ちゃんこ茶家 春日富士」の調理長ほか、各店で調理顧問を務める。平成4年、神奈川県卓越技能者表彰ほか、受賞多数。湯河原町在住。



柳刃、薄刃、出刃などの愛用の包丁。



上と左下/水無月(6月)の献立。食材は、帆立で貝・鱈・さざえ・鱈等々。伊勢海老と金目鯛、グリーンアスパラを用いた「ちゃんこ海鮮冷しゃぶ」(写真上・右側の塗碗)は、とくに評判。右下/調理をする伊澤さん。

かつて「二所ノ関部屋」の力士だったという伊澤邦久さんが、けがのためにやむなく廃業し、調理見習いとして東京・赤坂の料理屋で修業を始めたのは十八歳の時でした。

「生意気盛りでしたから、最初は修業に身が入りませんでした。そんな時に、親方(調理長)から、相撲の世界に横綱があるように、料理の世界にも横綱があるんだぞ、と諫められて、そのひと言で目が覚めました。よし、それならば横綱を目指そうってね(笑い)。幸い、自分は、相撲の巡業で日本中を歩いている。各地の郷土料理を味わったし、その土地の食材でちゃんこをつくってきた。その経験

はかならず役にたつ。そう思って、精進を重ねてきました」

現在、伊澤さんは、調理技術技能評価試験(国家試験)の中央試験委員をはじめ、調理の世界でさまざまな要職を務めながら、調理師たちを育成しています。そんな伊澤さんが考える料理の基本が「ちゃんこ」です。

「ちゃんこは、力士が食べる料理のことです。鍋だけではありません。その土地で手に入る季節の食材を使って、いかに、おいしくて、栄養価の高い料理をつくるかを工夫します。いわば、日本の郷土料理の集大成といっていいでしょう」というのが、その理由です。

社団法人神奈川県技能士会連合会(神技連)のご案内

1 設立経緯・構成規模

(社)神奈川県技能士会連合会は神技連の愛称で呼ばれ、昭和51年、神奈川県のご支援の下に8団体、構成員1500人余で設立。同61年に法人格を取得。現在、正会員24団体、賛助会員5団体、特別会員34人、構成員総数は2335人。主務官庁：神奈川県(名誉顧問：県知事)

2 会員(正会員:24団体 賛助会員:5団体)

■正会員

- ・県塗装技能士会
- ・県広告美術技能士会
- ・県洋装組合連合会技能士部会
- ・県寝具製作技能士会
- ・県産工業連合会技能士会
- ・県印章組合連合会技能士会
- ・県タイル築炉技能士会
- ・日建ブロックエクステリア神奈川県技能士会
- ・日本建築大工技能士会横浜協同建設会
- ・県工業塗装技能士会
- ・県日本調理技能士会
- ・日本工営グループ技能士会
- ・県板金工業組合技能士会
- ・県表具経師内装協同組合技能士部会
- ・湯河原地区建築技能士会
- ・県瓦屋根工業連絡会技能士会
- ・県和服裁縫協同組合技能士会
- ・県左官業組合連合会技能士会
- ・県洋服商工業協同組合技能士会
- ・県建具技能士会
- ・県畳工業協同組合技能士会
- ・県内装仕上技能士会
- ・横須賀三浦建設協会技能士会
- ・県伝統技術保存技能士会

■賛助会員

- ・県石材業連合会
- ・フラワー装飾技能検定県協議会
- ・県造園業協会
- ・パン製造技能検定推進協議会
- ・日本スピン(株)技能検定推進会

3 活動内容(平成16年度事業計画から)

- ・全国技能グランプリに会員選手参加：平成17年3月予定
- ・学童ものづくり体験教室を協賛：8月21日
- ・県技能コンクールに会員選手参加：11月13日
- ・技能展・技能士作品まつり主催：11月27日～29日
- ・神技連技能士大会主催：10月19日

4 事務所(技能相談本部)

〒231-0026 横浜市中区寿町1-4 かながわ労働プラザ6階
(代)Tel. 045-633-6110 (直) 671-1312 FAX 671-1314
e-mail ginoshi9@cronos.ocn.ne.jp
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~singiren>

職人^{かたぎ}気質の「技能者集団」

(社)神奈川県技能士会連合会会長

齋藤博巳^{ひろみち}



上／「神技連技能士作品まつり」の展示風景。下／学童ものづくり体験教室に参加する子どもたち。

昭和33年、技能伝承の近代化を指向して職業能力開発促進法が制定され、同34年から技能者の技能と関連知識水準を検定照査する技能検定制度が発足しました。当会は、県内の検定合格者のうち、24団体の、2300人余りが結集して連合した社団法人の団体で、県の実施する技能振興事業に協力しています。会員とその構成員は、先人たちが技能士の社会的な地位の向上と、技能尊重気風の一層の向上を希求して設立した本会の理念を継承し、さらに熟練者に加え、若者、女性、障害のある技能者が補完しあい、後継者の育成に取り組み^{かま}ながら、県内で働く広範な技能者に連携と結集^{むら}を呼びかけて、豊かで活力のある「ものづくり社会」の到来を目指しています。今回、本誌で紹介された職種以外の構成員

も、すべてが技能士です。県知事や大臣から表彰を受けた名工名人や、技能五輪、技能グランプリの上位入賞者も多く、さらに多くの構成員が、生業の傍ら近代技法の修得や、法令に基づく安全快速化の研修に励んでいます。当会や、左欄の会員にお声をいただければ、一部で流通する、生活環境に問題のある物件や、廉価^{れんか}不良品の見分け方をアドバイスし、さらに堅固で良質、職人の温もり^{ぬく}が感じられる、経験と確かな技に裏打ちされた、こだわりの作品や物件、サービスのご提供方法や技能者をご紹介しております。なお、役員人事、事業計画、過年度決算状況、会の定款全文、年間の事業・各僱事^{ていざい}の予定、その他の関連情報をホームページに公開しています。

上/明るく、華やかな店内。天井から吊られた風船が印象的。中上/笑顔が魅力の祐子さんを囲んで、母親で社長の佐草多江子さん(左)と、叔母の茨木静子さん(右)。中下/さまざまな商品が並ぶ店頭。下右/最も感銘を受けたというボルドーのブティック。下中/ボルドーで親しくなった人たちと記念撮影。下左/エッフェル塔。

私に勇気を与えてくれた店

平成十四年に、(財)はまぎん産業文化振興財団主催の商業従業者海外派遣団に参加して、ローマ、パリ、ボルドーを視察してきました。女性の参加者は私一人というので、多少の不安はありましたが、メンバーの皆さんは本当にやさしい方ばかりで、おかげさまで安心して、感動と発見の海外視察を楽しむことができました。財団さんには「大感謝」です。

最初に訪ねたローマの靴店などは、あまりにもファッショナブルで、呆氣にとられました。まるで宝石でも置かれてるように、鎮座(たまざ)しますという顔をして、「靴様」や「バッグ様」がいらっしやる(笑い)。お客さまもアーティストや芸能人が多いという店。ここは、お客さまが店を選ぶのではなくて、店の方がお客さまを選ぶという姿勢。すごいプライドを感じました。

それから、もつとびっくりしたのがボルドーの店で、ここが、いちばん心に残っています。店内すべてが、白と黒で統一されていて、洋服はすべて白、バッグや小物は黒、という具合で、「ここまでやってもいいの! あまりに趣味的すぎませんか」と言いたくなるような店でしたが、オーナーさんのこだわりには、感動を覚えました。私も、少し冒険してみようかなと、勇気を与えてくれた店ですね。

そういうお店と出会えたことと、視察を通していろんな人とめぐり合えたことが、私の財産になりました。

折り鶴と風船で店内を演出

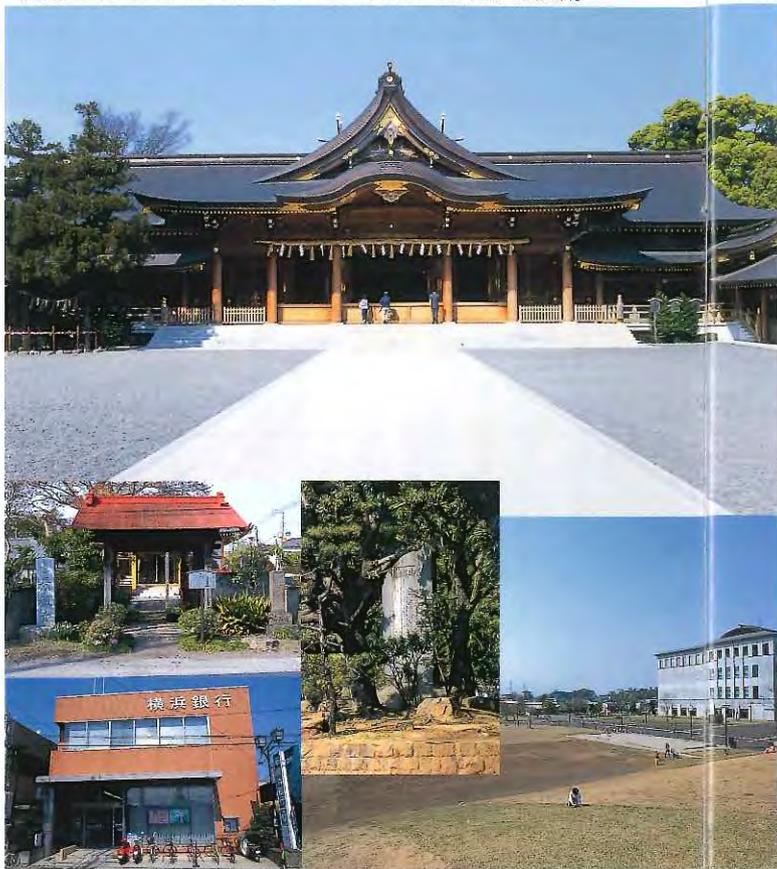
私は、生まれも育ちも寒川町で、祖



海外派遣団員が語る⑩
笑顔と挨拶と折り鶴で、異文化コミュニケーション。
寒川町 佐草(靴・バッグ販売) 佐草祐子さん



上/寒川神社。古くは9世紀の文献にも登場する古社で、源頼朝をはじめ、時の為政者たちの信仰を集めた。下右/さむかわ中央公園。下中/昭和11年に寒川浄水場が完成し、県営水道が始まったことを示す水道記念碑。左上/景観寺。行基の開山とされる古刹。本尊の十一面観音立像は室町時代の作。左下/横浜銀行寒川支店。



※ 働はまぎん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として、平成元年より神奈川県外の商業従業者の方を対象に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を主催。海外の商業文化を視察する機会を提供しております。



(南)佐草 ● 高座町寒川町岡田11622/JR相模線寒川駅から徒歩3分。☎FAX046717514214 営業時間/9時~19時/無休

佐草祐子(さくさ・ゆうこ) ● 昭和39年、寒川町生まれ。横浜の経営学校を卒業後、大手の靴店を経て、母の経営する靴・バッグ・小物の販売店・(南)佐草に入社し、現在に至る。

私の母で、叔母にも手伝わってもらって、三人で店を切り盛りしています。

大都市の靴店ではありませんから、地元のお客さまを、なにより大切にしています。お年寄りから子供まで、どんな年代層にも気に入ってもらえるような品揃えをして、それでも、あんまり保守的にならないように、流行の先端にも気を配っています。幸い、母と叔母と私の三人それぞれが考えを合わせれば、けっこう調和がとれた品揃えができます。

しかし、それだけで満足してはいけません。もっと店の個性を出して、

お客さまにアピールしたほうがいいのではないかと。海外視察から帰って、そのことばかりを考えてきました。

お客さまをお待ちする姿勢から、呼び込む姿勢へ。こう言う少し大げさかもしれませんが、靴やバッグの並べ方一つにしても、以前より、こだわりをもつようになりました。それに、天井からバルーン(風船)を吊って、楽しい雰囲気づくりをしたり、商品の脇に、さり気なく折り鶴を置いたりして、

お客様をお迎えしています。ちなみに、折り鶴もバルーンも私の特技です。「芸が身を助ける」といい

ますけど、視察先で出会った方々にも、挨拶がてら折り鶴を差し上げて、ずいぶん喜ばれました。折り鶴とおしとの「異文化コミュニケーション」。

そして何よりも大切なのは、最高の笑顔と挨拶だと思います。たとえ語学が堪能でなくても、世界中どこに行くにも、その国の挨拶の言葉だけは覚えて訪れるのが礼儀。笑顔と挨拶こそ、まさに「幸せになれる魔法」ではないでしょうか(笑い)。

寒川神社に来られる時には、ぜひ、お立ち寄りください。笑顔と挨拶と折り鶴がお待ちしています。(談)

お知らせ

へまぎんホール ヴィアマールからのお知らせ
平成16年度ヴィアマール自主催事のご案内(予告)
 はまぎんホール ヴィアマールでは、今年度も文化講演会等の開催を予定しています。チケットの発売など詳細は今後ちらしなどでご案内いたしますので、どうぞみなさまお誘い合わせのうえ、お出かけください。

◆文化講演会(神奈川近代文学館共催)◆

平成16年9月18日(土) 14時開演予定 出演者●城山三郎(作家)
 入場料●1200円(一般 全席自由(7月発売予定))
 このほか、恒例の「新春はまぎん寄席」を17年1月に、「ヴィアマール・ファミリア・クラシック・コンサート」を17年3月に開催の予定です。どうぞお楽しみに。
 ※公演内容・時間は変更になる場合がございます。

◎はまぎんホール ヴィアマール

横浜市西区みなとみらい3-1-1(横浜銀行本店1階)
 電話●045(225) 2173
 交通●JR・横浜市営地下鉄線・桜木町駅下車、「動く歩道」利用5分、みなとみらい線・みなとみらい駅下車、「クイーンズスクエア連絡口」「けやき通り口」徒歩7分



はまぎんホール ヴィアマール



<http://www.yokohama-viamare.or.jp/>
 ※「マイウェイ」へのご意見・ご要望は
info@yokohama-viamare.or.jp
 へお気軽にお寄せください。

へまぎんからのお知らせ
**「年金」電話相談サービス
 (無料)のご案内**

年金制度や年金請求の手続き方法など、年金に関する疑問に、何でもお答えいたします。また、年金に関連した雇用保険制度、健康保険制度についてのご相談や「年金教室」のお申し込みも承ります。お気軽にお電話ください。

●へまぎん年金デスク

フリーダイヤル 0120(334)089

●相談受付日 銀行窓口営業日

相談受付時間 9時〜17時



編集後記

近代化、大量生産化が進んだ現在、人に代わって機械が物づくりをする光景は、日常的に見受けられるようになりました。しかし、機械は、あくまで手の機能の延長上に発達したものであり、熟練した人の「手」によらなければ成り立たない仕事が多岐にわたる分野にあることはいまもありません。

今回の「マイウェイ」では、そうした仕事の中から、私たちの暮らしの、ごく身近にある職種で、名工として活躍されている七名の皆さまにご登場いただき、仕事に対するご苦労や喜び、心意気などを語っていただきました。

その貴重なお話からは、「熟練した技能は、人一倍の鍛練と、仕事への誇り、情熱によって培われてゆくもの」という強い信念が感じられました。さらには、その技能を「次の世代に伝えなければ」という切実な使命感を持たれていることなど、さすがに、その道を究められた方ならではの、敬服いたしました。

最後になりましたが、名工の方々をご紹介いただきました神奈川県技能士会連合会をはじめ、取材にご協力いただきました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団
 事務局長 清水昭雄

●次号予告(9月下旬刊行)
「横浜はじめて物語」